

17) 腹腔鏡下胆嚢摘出術における術中超音波検査の意義

大谷 哲也・川合 千尋
川上 一岳・中平 啓子 (日本歯科大学)
吉田 奎介 (新潟歯学部外科)

腹腔鏡下胆嚢摘出術 (LC) における術中超音波検査 (US) の有用性を明らかにするために術中 US 描出能, 術中 US と術中胆道造影の診断能の対比を行った. 対象は 1993 年 6 月より 10 月までに施行された LC 21 例で, 術中 US はアロカ電子リニア方式 LC プローブ (7.5 MHz) を使用した. 術中 US は 21 例全例に施行され, 描出率は胆嚢管合流部 91%, 肝外胆管 95%, 膵内胆管 81%, 乳頭部 43%, 固有肝動脈 100%, 右肝動脈 95%, 胆嚢動脈 67%, 門脈 100% であった. 術中胆道造影は 21 例中 18 例 (86%) に施行され, 3 例に filling defect を認めうち 1 例は術中 US で胆管結石が証明された. 術中 US の平均所要時間は 11 分 21 秒で胆道造影の 24 分 47 秒に比し有意 ($p < 0.001$) に短かった. 胆管精査で胆嚢管合流部確認までは 1 分 18 秒であった. 術中 US の胆管・肝動脈・門脈系の描出は高率でかつ術中胆道造影に比し短時間であり, 本法は LC における胆管損傷, 脈管損傷, 遺残結石回避のための有用な手段である.

18) 腹腔鏡下胆嚢摘出術 (LC) の合併症とその対策

—LC 112 例の経験から—

川合 千尋・川上 一岳
大谷 哲也・中平 啓子 (日本歯科大学)
吉田 奎介 (新潟歯学部外科)

当科で経験した腹腔鏡下胆嚢摘出術 (LC) 症例の術中術後合併症を検討し, その対策につき報告する. 【対象】1991 年 10 月より 1993 年 10 月までに LC を施行した 112 例 (男 50, 女 62) を対象とした. 【結果】1. 開腹移行になった術中合併症: ① 総胆管損傷 1 例, ② 総肝管損傷 1 例, ③ 大腸損傷 1 例. 2. その他の術中合併症: ① 動脈出血 5 例, ② 胆汁の漏れ 34 例, ③ 結石の腹腔内落下 3 例, ④ 腹膜前気腫 3 例, ⑤ 皮下気腫・陰嚢気腫 5 例. 3. 術後早期合併症: ① 胆汁漏 1 例, ② 腹膜前・腹腔内血腫 3 例, ③ 右肩痛 7 例, ④ 遺残結石による肝機能障害 1 例. 4. 術後晚期合併症: ① 腹痛発作・肝機能障害・膵炎 3 例, ② 総胆管狭窄・肝機能障害 1 例. 【対策】1. 胆嚢管の剝離は必ず胆嚢頸部より行う. 2. 胆嚢管・胆嚢動脈を確認後切離を行う. 3. 術中胆道造影を必ず施行する (当科の成功率 68/73=93%). 4. 術

中超音波検査で 3 管合流部を確認する. 5. 腹部手術既往例での気腹は open method とする.

19) 腹腔鏡下虫垂切除術の有用性

若井 俊文・三浦 宏二
牛山 信・金田 聡 (秋田赤十字病院)
高野 征雄 (外科)

過去 5 年間の開腹下虫垂切除術 (OA) 123 例と腹腔鏡下虫垂切除 (LA) 4 例を比較検討した. OA の内訳は, catarrhalis 14 例 (11.4%), phlegmonosa 58 例 (47.2%), gangrenosa 51 例 (41.5%) で, phlegmonosa の 3 例 (5.5%), gangrenosa の 17 例 (32.1%), 全体として 16.3% に術後創感染を認めた. 創感染を併発した 20 例と併発しなかった 103 例の平均入院期間はそれぞれ 22.2 日, 9.7 日で両者に有意差 ($p < 0.01$) を認めた. LA の内訳は, phlegmonosa が 1 例 (25%), gangrenosa が 3 例 (75%) で術後創感染などの術後合併症は認めなかった. 入院期間は 6 日から 11 日で平均 8.3 日であり, OA で創感染を併発した群よりも有意 ($p < 0.01$) に短かった. 腹腔鏡下虫垂切除術は 1) 術後の創痛が少ない, 2) 術後創感染が少ない, 3) 十分な洗浄が可能である, 4) 術後イレウスの発生率が低いと思われる, などの利点を有しており, 炎症が高度な虫垂炎ほどそのよい適応と考えられる.

20) 新潟こばり病院外科の 1 年

石川 貞利・加藤 清 (新潟こばり病院)
小野田一男 (外科)
大谷 哲也 (日本歯科大学)
新潟歯学部外科

平成 5 年 1 月 1 日より 11 月 20 日迄の約 11 ヶ月間に当科で 134 例の手術を行った.

悪性疾患は, 胃癌 8 例, 結腸癌 10 例, 直腸癌 4 例を含む 27 例であり, 良性疾患は, 胆石症 33 例, 急性虫垂炎 24 例など 107 例であった.

全手術例の年齢分布は, 60 代を最多に各年代平均的に存在した. 75 才以上の高齢者は 23 例 (17%) で, 80 才以上には 15 例であった.

悪性疾患では 27 例中 10 例が 75 才以上の高齢者で, 最高令は, 右結腸切除例の 93 才である.

胆嚢結石症に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術を 20 例に行い, 左側胆嚢 1 例を含む 3 例が開腹手術に移行した.